

2016年3月31日までに慢性活動性EBウイルス感染症の診断を受けた患者さんへ

「慢性活動性EBウイルス感染症に対する化学療法の実態調査」へのご協力をお願い

承認番号： 第M2016-013番

研究期間： 医学部倫理審査委員会承認後から2027年3月31日

研究代表者：東京医科歯科大学大学医歯学総合研究科 血液・生体システム解析学分野 西尾美和子

共同研究機関：国立成育医療研究センター研究所 免疫アレルギー・感染研究部 藤原成悦（解析担当）

目的と意義

EBウイルス陽性T/NK細胞増殖症（慢性活動性EBウイルス感染症、CAEBVと略します）は、ヘルペスウイルスの仲間のEBウイルスが白血球のひとつであるリンパ球の中で勢いをまし、その結果ウイルスをもつリンパ球自身を活性化させ、増やすことによって様々な症状をひきおこす慢性の病気です。日本をはじめとする東アジアに見られる、大変まれな病気です。ウイルスがB細胞以外のリンパ球、T細胞、NK細胞に感染すると、勢いをましてウイルス自身が増えるほか、感染しているT細胞やNK細胞をふえやすく、活動性の高いものに変えてしまいます。これを再活性化といいます。T細胞、NK細胞は体にはいつくる様々な病原体に対し、サイトカインという物質をだして攻撃したり、直接それらを食べたり（貪食、どんしょく、といいます）して体を守ってくれる細胞です。それらの細胞が活性化するとさまざまな症状が出てきます。また長い時間を経てそれらの細胞ががん化し、リンパ腫や白血病になります。これまで各種の抗がん剤による治療法が試みられてきましたが、有効な治療法が定まっていません。

大変稀な病気のため報告が少なく、どんな薬物療法がなされどのような効果を示すかを多くの患者さんに対して調査したデータはこれまでありませんでした。それが明らかになればより有効な治療の選択や計画に役立つことが期待されます。

方法

研究では、全国の血液内科（日本血液学会研修施設など）にアンケート調査（性別、年齢、病型、臨床像、感染細胞型など）を行い、患者さんの数と行った治療、効果について調査します。

個人情報の取り扱いについて

調査は匿名で行います。結果は学術的研究に使用され、一人ひとりの個人情報は守られ、名前や個人を識別する情報は一切公表されません。また、患者さん個人に利益や不利益は生じません。研究結果は公的な学術大会や学術雑誌にて報告し、今後の検査法・治療法の改善に利用されます。第三者へ供給することはありません。

利益相反

本研究は日本医療研究開発機構難治性疾患実用化研究事業を用いて行われます。本研究を実施するにあたり特定企業との利害関係はありません。研究の実施にあたっては、利益相反マネジメント委員会において審議され、適切であると判断されております。

問い合わせについて

患者さんには研究主旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。研究への参加や撤回はご自由です。カルテの情報や画像データをこの研究に使用されたくない希望をお持ちの方や心配がある方は、ご遠慮なく医師またはスタッフにお申し出ください。希望しないからといって、今後の診療に何ら不利益になるようなことはありません。

ご不明な点がございましたら、医師またはスタッフまでお問い合わせください。

問い合わせ先

東京医科歯科大学病院 大学医歯学総合研究科 血液・生体システム解析学分野 西尾美和子

研究代表者：西尾美和子

〒113-8519 東京都文京区湯島1-5-45 03-5803-5211（ダイヤル）（対応可能時間帯：平日9:00～17:00）

苦情窓口：東京医科歯科大学医学部総務係

03-5803-5096（対応可能時間帯 平日9:00～17:00）